

# 犬と暮らす

Bow wow!



-1-  
唯川 恵

去年のお正月、私はルイと不安の真ただ中にいた。ルイとは、わが家で飼っている雌のセントバーナード犬である。

年末から生理の出血が止まらず、近くの掛かりつけの獣医師さんに往診してもらったら、子宮蓄膿症との診断だった。薬が効けば手術が回避できるとのことだったが、年を越してから急速に容体が悪くなり始めた。

もはや手術しか助かる方法はない。

分かっていても、なかなか決断が付かなかった。

親切で評判も腕もいい獣医師さんだったが、ルイは身体にも触れさせないほど、彼には懐かなかったからだ。

また、ルイは車嫌いで、乗せると心臓が破裂するのではと思うほど激しい呼吸になる。だから、車に乗せて遠くの別の動物病院には連れて行けない。

もはや選択肢はなかったが、それでも手術の決断が付かなかった。

そんな時だった。自宅から歩いて15分ほどの所に、動物病院が開院した。

私は思わず、その病院に飛び



(絵・小山内仁美)

## 会った瞬間信頼 すぐ手術

### 獣医師さんとの相性

込んだ。応対してくれた獣医師さんに、ルイの症状をこと細かく説明した。

「犬と獣医師には相性があります。ぜひ、ルイと会わせてください」

その獣医師さんはすぐに往診に来てくれた。会った瞬間、ルイは自分から獣医師さんにすり寄って行って、うれしそうに身体を預けた。

診断が終わった後、「大丈夫です。この子は私を信頼してくれています。症状から診て、すぐに手術しないと危ない。私を信用して任せてくれませんか」

ルイの様子と、その獣医師さんの言葉を聞いた途端、私の不安はぬぐい去られ決断した。

無事手術を終え、9歳になつた今も、その獣医師さんが往診に来ると、うれしそうにしっぽを振って玄関を迎えに行く。私という時より喜んでる姿には、ちよつとムカつくが。



ゆいかわ・けい  
小説家。1955年  
金沢市生まれ、北  
佐久郡軽井沢町在  
住。「愛に似たもの」(柴田錬三郎賞)など著書多数。